

DEBUT 首長

鹿児島県曾於市長 五位塚 剛氏



ごいつか・つよし 1954年曾於市(旧・末吉町)生まれ。宮崎県立都城工業高校卒。84年空調設備会社「五位塚冷暖房サービス」を開業。87年末吉町の町議会議員に初当選、2005年3町合併で曾於市市議会議員。13年7月曾於市長選に出馬し、初当選。59歳。

フラワーパーク計画は白紙 共産党に市政口出しさせず

曾於市 鹿児島県の大隅半島北部にあり人口は約3万9500人。主な産業は黒豚、黒毛和牛の畜産、ゆず、茶などの農業。

——前市長が計画していた公園整備事業「フラワーパーク」などの建設反対を掲げて共産系市長として当選した。

事業は白紙に戻す。今回の選挙戦は事業の中止か継続かを争点にした住民投票だと市民に訴えてきた。結果ははっきりした。山林約12haを切り開き総事業費は約13億円もかかる。7割は合併特例債で賄えるというが、観光施設として計画があいまいで、リピーターを呼び込めない。さらに収支計画を精査すると維持管理費がかかり赤字が増え、結果的に市民にツケが来る。ただ事業に含まれていたパークゴルフ場は市民の要望もあるので今回とは別の場所に設けることを検討する。

一方で用地の約90%は(前市長時代の売買契約で)取得済み。購入価格は約1億5000万円。土地の利用法は市民から公募した30人で構成する委員会

を設けて協議してもらう。その結論をみて判断する。私は売電で収益が見込める大規模太陽光発電施設(メガソーラー)などを想定している。ただフラワーパーク事業は中止なので、委員会から改めて提案されても絶対認めない。

——市長選では市民団体の支援を受け無所属で出馬した。

共産党員であることは私の生き方の問題、個人の考え方だ。弱者を助ける共産党の市議として長年活動を続けてきた。一方、私を擁立した市民団体は党派を超えた人たちが事業中止という目標を達成するため集まり、署名活動をした。私の出馬に向けて市民団体から「無所属」という要請があり受け入れた。

共産党から市政への口出しはないと確認し、私も指示は受けない。市のことは基本的には市民、議会、市職員と一緒に解決する。私は国旗、国歌、自衛隊も尊重している。日本という国の形があり、反対はあり得ない。私は共産党の考えを職員や市民に押しつけることはしない。

——市議のほとんどが選挙

戦では前市長を支持。議会運営で協力は得られるのか。

議会の賛成がないと、いくら良い政策を出しても実現できない。丁寧に自分の考えを説明して理解してもらう努力を繰り返すしかない。11月には市議選も控えているが、私の政策に賛同する候補者を応援することはない。議員を説得しお願いするほかはないが、市議は良識ある人々、最終的には市長に協力してくれると思う。

——公約に掲げた長寿祝い金や市長退職金廃止は。

これまで市の規則で高齢者に節目で支給していた。これを改め今年から75歳以上に毎年3000円を支給する。100歳には従来通り10万円を贈る。一方、首長の退職金については減額か廃止が時代の流れ。任期4年の退職金制度の1670万円は廃止したい。(聞き手は

鹿児島支局長 近藤 英次)